

ヴァレンテとおの **三浦正高** 監督

準決勝、決勝以外は全て0点に抑え、素晴らしいサッカーを見せてくれました。優勝を逃したのは残念ですが、今回の準優勝はきっと意味のあるものだと思います。サッカー人生は、まだまだこれからです。この大会を通じて教わったことを生かし、立派な人間に成長してください。

この大会を通じて協力していただきました父母の皆さま、ご支援いただきました市サッカー協会の皆さまには心から感謝いたします。



サッカー
ヴァレンテとおの

ヴァレンテとおの 市内唯一の男子のサッカーズポーツ少年団として1999年設立。ポルトガル語で「勇敢な」という意味を持つチーム名のとおり小学1～6年までの84人が週3回、元気にボールを追い掛けている。

◆第32回全日本少年サッカー岩手県大会(準優勝) 予選リーグ(6月14-15日)

- 1回戦 ○2-0 ジュニアアトスFC(盛岡市)
 - 2回戦 ○2-0 久慈FC(久慈市)
 - 3回戦 ○1-0 FC宮古デルフィーレ田老(宮古市)
- (グループ1位で決勝トーナメント進出)

決勝トーナメント(6月21-22日)

- 1回戦 ○1-0 胆沢第一FC(奥州市)
 - 2回戦 ○2-0 鶴岡SC(滝沢村)
 - 準決勝 ○1-1 太田東少年団(盛岡市)
 - (延長1-0)
 - 決勝 ●0-2 南城少年団(花巻市)
- (第2代表で東北大会へ)

取材を終えて

この夏、国体や東北総体などで活躍が期待される選手たちを追った。

皆、夢に向かいひたむきに練習を積み、自分を信じ挑戦し続ける。勝負の世界に情熱を傾け、明日をまっすぐに見据え、純真な心で前に進む。

北京オリンピックの話題で新聞やテレビがにぎわいをみせている。トップアスリートといわれる人たちは、そのプレーで夢と感動を与え、輝きを放つ。

そんなトップアスリートたちに負けないくらい輝きを見せる選手が遠野にはたくさんいる。彼らの活躍は、わたしたちに大きな希望と感動を与えてくれる。あきらめない心とおごらない姿勢は、トップアスリートと何ら変わることはない。

そんな選手たちを全力で応援していきたい。声が枯れ、手が痛くなるまで。熱く、真っすぐに、大きな声でー。

【特集】僕たちの熱い夏 終わり

反則でPKのチャンスを得たヴァレンテはキャプテン菊池玲緒(遠野北小六年)がきっちりゴールを決め、1-0で辛くも勝利を収めた。優勝まであと一つ。決勝戦は南城少年団(花巻市)。新人戦では同じベスト8まで勝ち上がったチーム。優勝候補の前FC(盛岡市)を破って勝ち上がってきただけに勢いがあつた。「ピー」。ホイッスルとともに試合が始まった。前半5分、コナーキックからのボールをDFのマークをはずして飛び出した南城のFWが右足を振り抜いて先制。チームの点取り屋をけがで欠いたヴァレンテは、どうしても点が決まらない。攻撃陣を増やし怒涛の攻撃を仕掛けるが、逆にセットプレーで1点を失い0-

2に。「絶対勝てる」と信じ、最後まで走り続けるヴァレンテ。「ピッ、ピー」。試合終了のホイッスルが鳴った。選手、ベンチ、スタンドのみんなが泣いた。しかし、一人だけ涙をこらえる選手がいた。「悔しいけど次がある。東北大会で必ず優勝する」と前を向く10番本山博仁(遠野北小六年)。強い日差しがさんさんと降り注ぐ市民サッカー場には、真っ黒に日焼けしたサッカー小僧たちがいた。八月一日から宮城県利府町で行われる東北大会での優勝を目指し、グラウンドいっぱいボールを追う。励まし合い、競い合い、サッカーを楽しむ。「サッカーのまち遠野」の若きイレブンは、必ず東北に旋風を巻き起こすだろう。その熱き思いとともにー。

真つ青な空の下、グラウンドを所狭しと駆け回る子どもたち。プロの選手に憧れ、仲間と触れ合い、誰よりもサッカーを愛するサッカーズポーツ少年団、ヴァレンテとおの。県内八十六あるサッカーチームの頂点を目指し熱戦が繰り広げられた、第三十二回全日本少年サッカー岩手県大会。昨年はベスト16で敗れ、悔し涙を流した。今年は優勝を目指し、週三回の練習以外にも、ドリブルやリフティングなど自主トレーニングに励んできた。「必ず勝つ」という強い気持ちで臨んだ県大会。大会には各地区の予選を勝ち抜いた三十二チームが出場。一グループ四チームのリーグ戦で争われ、各グループから二チームが決勝トーナメントに進出する。ヴァレンテは、予選リーグを無失点で通過。決勝トーナメントでも二回戦まで、完全に相手を封じ込め、強さを見せつけた。「みんなよく走ります。ディフェンス力が高く、セットプレー

もうまい。個々の意識が高いチームですね」と話す三浦正高監督(早瀬町、31歳)。普段は、ドリブルやパスなど基礎をしっかりと指導する。試合形式の練習では、攻撃や守備での要点を分かりやすく説明し、考える力を与える。一人一人の個性を尊重し、能力を最大限に引き出す。「試合で勝つためには技術やチームワークだけでは駄目です。「戦う気持ち」が大事」と熱く語る三浦監督。大人でも苦しい「五分間走」を練習に取り入れ、「辛いときはどう考えるか」を子どもたちに問いつけた。その結果「どんなときもあきらめない」という強さを備えていった。準決勝は大田東少年団(盛岡市)。体の大きい選手が多く、当たりも強い。先制したヴァレンテは一点を守りきる作戦に出たが、大田東の怒涛の攻撃に後半一点を奪われ1-1で延長戦に。「強い！でも必ず勝つ」という強い意志で、懸命にボールを追い続けたヴァレンテ。延長後半、相手の